

# 令和2年度 施策評価シート

<b>基本目標</b>		区民と区が協働で「すみだ」をつくる
<b>政策</b>	540	多様な主体が参加する区政のしくみをつくる
<b>施策</b>	542	区政への参加を広げ、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する
<b>施策の目標</b>	区民や事業者は、協治(ガバナンス)によるまちづくりの主体として積極的に区政に参画し、地域の課題解決に取り組んでいます。区は、新たな課題に対応するため行政のスリム化並びに「選択と集中」により、一層の効率的な行財政運営を進めています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

<b>指標名</b>	「区と一緒に、区の事業やイベントなどを企画したり、実施したことがある」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	—	1640	1495	1500	1505	1510	1515	1520	1525	1530
実績	1634	1493	1498	1525						
<b>指標名</b>	区政全般に対する区民の満足度の点数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	—	40.5%	38.5%	39.0%	39.5%	40.0%	40.5%	41.0%	41.5%	42.0%
実績	40.36%	37.9	38.0	38.4						

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
本所及び向島納税貯蓄組合連合会は、税の普及・啓発のため中学生を対象にした税に関する作文事業等を国(税務署)、都(都税事務所)、区と協力して実施している。税に関する作文の応募数は「中学生が税を考える機会」を表すものであり、税の普及・啓発の指標となるものである。 区内の中学生の応募割合は、各中学校の指導方針により応募数の増減はあるが、例年通りの推移であり事業の必要性は高い。	H29	1,000
	H30	1,000
	R1	1,000

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	毎年一定数の中学生から税の作文についての提出があり、租税教育の効果が見込まれることから、補助を継続するのが望ましい。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
行政運営に対する協力団体であり、当面、現状のまま、継続すべきである。	
【今後の具体的な方針】	
補助団体が補助目的に沿った活動を行うよう今後も依頼していくとともに、区としても活動への協力を可能な限り行っていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果 評価対象年度
1	納税奨励事務(納税貯蓄組合連合会補助金)	1,000	1,748	2,748	本所納税貯蓄組合連合会及び向島納税貯蓄組合連合会に対して、納税貯蓄組合連合会が行う区税の納税推進に関する事業を対象にした補助金交付を実施することで、特別区民税等の区税の納期内納付秩序の確立に向けた活動を促進し、区民への納税意識の高揚、口座振替の普及拡大等の啓発活動を円滑に実施できる。	現状維持  令和元年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						



事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 ( 活 動 指 標 )	指 標	「中学生の税についての作文」応募者				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1530	R 7	目標		1640	1495	1500
				実績	1634	1493	1498	1525
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	1505	1510	1515	1520	1525	1530	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本所及び向島納税貯蓄組合連合会は、税の普及・啓発のため中学生を対象にした税に関する作文事業等を国(税務署)、都(都税事務所)、区と協力して実施している。税に関する作文の応募数は「中学生が税を考える機会」を表すものであり、税の普及・啓発の指標となるものである。							
	目 的 に 対 する 指 標 ( 成 果 指 標 )	指 標	区内の中学生数に対する応募割合				単 位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
42%		R 7	目標		40.5	38.5	39	
			実績	0.4036	37.9	38	38.4	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	39.5	40	40.5	41	41.5	42		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
応募作文の実数のほか、年度ごとに生徒数の増減があることから応募割合も指標とすることとし、これまでの実績を上回る応募率を目指していく。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	補助団体が補助目的に沿った活動を行うよう今後も依頼していくとともに、区としても活動への協力を可能な限り行っていく。

課題・問題点
各中学校の指導方針により年によって応募数の増減があるので、多数の応募が得られるよう、中学校に趣旨の説明等の働きかけを行う必要がある。



補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	「中学生の税についての作文」応募者				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1530	R 7	目標		1640	1495	1500
				実績	1634	1493	1498	1525
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1505	1510	1515	1520	1525	1530
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本所及び向島納税貯蓄組合連合会は、税の普及・啓発のため中学生を対象にした税に関する作文事業等を国（税務署）、都（都税事務所）、区と協力して実施している。税に関する作文の応募数は「中学生が税を考える機会」を表すものであり、税の普及・啓発の指標となるものである。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	区内の中学生数に対する応募割合				単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		42%	R 7	目標		40.5	38.5	39
				実績	40.36	37.9	38	38.4
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		39.5	40	40.5	41	41.5	42	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
応募作文の実数のほか、年度ごとに生徒数の増減があることから応募割合も指標とすることとし、これまでの実績を上回る応募率を目指していく。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		補助団体が補助目的に沿った活動を行うよう今後も依頼していくとともに、区としても活動への協力を可能な限り行っていく。						

課題・問題点	
<p>「中学生の税についての作文」募集など啓発活動については、職員のみでの運営は難しく、補助金を支出して納税貯蓄組合連合会の協力を得ることが必要不可欠である。</p>	